

文化財でまちを元気に！

佐倉市文化財保存活用地域計画

概要版

本計画は、佐倉の文化財の保存と活用に関する基本的な「方針」と具体的な「措置（取組）」を定める総合的な計画です。文化財の保存と活用を通じて、市民をはじめとする地域コミュニティやまち全体を元気にし、“笑顔輝き、活力と賑わいのある”佐倉市を創り上げていくことを目指します。

佐倉市の概要

- ・千葉県北部，下総台地の中央部に位置
- ・人口約 17.1 万人の首都圏近郊都市
- ・旧町村の名残をとどめた特色ある 7 地区
- ・成田国際空港から約 15km の距離

文化財の概要

※令和 6 年 3 月現在

- ・指定等文化財 … 114 件
- ・未指定文化財 … 14,380 件（把握件数）
- ・日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」の認定など

—— 本市で歴史的に培われてきた **地域の個性** や **地域らしさ** を示す **5つの歴史文化** ——

歴史文化① 豊かな自然が育んだ印旛沼文化

原始・古代の佐倉は、印旛沼を中心とする豊かな自然に生まれ、地域の核となる大規模な集落が形成されました。印旛沼は日々の衣食住や、盛んな交流・交易などの恩恵をもたらし、「印旛沼文化」と捉えられる固有の文化が各時代に醸成されました。



歴史文化② 古東海道沿いに花開いた仏教文化

現在の国道 5 1 号線に近い「古東海道」の沿線には、奈良時代に寺院が建立され、周囲の村々に仏教文化が花開きました。この道を介して当時の最先端の文化や技術が佐倉にもたらされ、印旛地域の仏教信仰や政治の中心地として繁栄しました。



歴史文化③ 中世武家の興亡の舞台

中世の佐倉では、千葉氏をはじめとする武家が離散集合を繰り返しながら勢力を広げ、本拠となる城館や街道・宿場が整備されました。本佐倉城の築城や臼井城における合戦など、佐倉は中世武家の興亡の舞台となり、その記憶は色濃く刻まれています。



歴史文化④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町

佐倉城の築城以降、佐倉は東の要衝として江戸を支え、成田街道により結ばれました。幕末には、藩主の堀田正睦のもと充実した教育が行われ、蘭方医の佐藤泰然が順天堂を開きました。江戸では失われた祭礼文化も、佐倉では現代まで受け継がれています。



歴史文化⑤ 地域で継承される祈りと暮らし

佐倉には、古代・中世に遡る寺社、仏教彫刻、宝物類、祭礼文化、民俗、芸能など、様々な祈りと暮らしの「場」や「かたち」が残っています。これらは市内の幅広い地域や時代に分布しており、各地域の個性を伝えるものとして継承されています。



措置(取組)

推進体制

本計画の作成にあたり、佐倉市の文化財の保存・活用に関する「将来像」と、計画期間内の「目標」を定め、その柱となる「3つの方向性」を設定しました。目標の実現に向けては、大きなプロセスとして「大方針」を整理し、その課題解決のための「方針」に基づいたそれぞれの「措置(取組)」を実施していきます。

措置(取組)の推進にあたっては、「行政(市)」を中心に「国・県」、「市民」、「所有者」、「審議会」、「学識者」、「民間団体」、「学校」との協働・連携を図りながら保存・活用を進めていきます。

[将来像] [目標]

[3つの方向性]

[大方針]

[方針]

[主な取組(重点措置)]

[取組例]

文化財でまちを元気に!

佐倉に関わる全ての人々が、身近に歴史文化を感じられるまちに



▶ まずは、市民・来訪者に佐倉が“歴史のまち”であることを知ってもらう



▶ 文化財の魅力を通じて、“歴史のまち”佐倉に愛着を持ってもらう



▶ “歴史のまち”佐倉を守る仕組みに参加してもらう

① 把握調査の推進と、正確かつ魅力的な情報の掘り起こし

② より訴求力の高い一貫した情報発信

③ 効果的・継続的な情報発信

① 他都市との差異を明確にしたブランディング

② 教育・観光面での活用による魅力を繰り返し伝える機会の提供

③ 佐倉の魅力の源となる文化財の適切な維持管理・整備

① 市民の歴史文化への想いをかたちにするための支援

② 次世代の文化財を守る人材・担い手の確保・育成

③ 文化財を支える体制の構築

① 情報発信の前提となる把握調査や指定・登録の推進

② 佐倉の歴史文化を「知らない」人に向けたメッセージの創出

③ メッセージを踏まえた「追体験」「新体験」による普及啓発

④ 既存・新規のツールを活かした効果的な情報発信

⑤ 歴史文化に関する継続的で幅広い展示の充実

⑥ 佐倉城跡や印旛沼の魅力を活かしたブランドイメージの確立

⑦ 佐倉学に関する事業体制の見直し

⑧ 「歴史のまち佐倉」にふさわしいまち並み・沿道景観の形成

⑨ 体験型による新たな“楽しい”佐倉学の展開

⑩ 本市の特性を活かした新たな観光スタイルの展開

⑪ 観光客の誘致・消費促進に向けた拠点整備と連携体制の構築

⑫ 誰でも気軽に訪れることができる回遊機能の強化と環境整備

⑬ 歴史的建造物の保存整備

⑭ 史跡・名勝・天然記念物の管理整備

⑮ 伝統芸能活動団体を「地域を元気にするプレイヤー」に

⑯ 市民や民間団体等のニーズを踏まえた地域住民との連携体制の構築

⑰ 歴史文化を受け継ぐ新たな担い手の育成と円滑な継承

⑱ 文化財を守るための持続可能な保存・管理体制の構築

⑲ 文化財を守るための持続可能な財源の確保

⑲ 文化財の望ましい保存環境の構築・提案

⑲ 展示スペースの確保とネットワーク化による「まちの博物館化」

⑲ 地域計画の推進・進行管理による実効性の確保

- ・現状の把握が不十分な未指定文化財の把握調査
- ・佐倉の歴史文化を「知らない」人をターゲットとしたメッセージの整理・検討
- ・文化財の持つそのものの価値や魅力を深く知ってもらう「追体験」の企画・実施
- ・文化財の持つそのものの価値や魅力に別の価値を付加する「新体験」の企画・実施
- ・若い世代を対象とした SNS 等の活用による戦略的な情報発信
- ・文化財の情報をまとめた冊子の編集・発行・販売
- ・「佐倉市デジタルアーカイブ」による情報公開の推進
- ・歴史文化に関する文化財の実物展示と、各地区の展示スペースの機能・役割の見直し
- ・シティプロモーションにおける佐倉城跡や印旛沼に関する魅力の明確化
- ・佐倉学における SDGsや探求学習などの新しい観点による幅広い文化財の活用
- ・各小学校区での「わがまち探検隊」(仮)の結成
- ・「佐倉市 GIGA スクール構想」と連携した ICT を活用した情報教育の展開
- ・日本遺産を活用した体験プログラムの造成・販売・ブラッシュアップ
- ・「学び」のコンテンツを活かした校外学習等の誘致
- ・文化財施設をはじめとする歴史的建造物の日常的な管理と周期的な保存修理
- ・旧今井家住宅・旧平井家住宅の効果的な活用・魅力向上のための保存整備
- ・地域の伝統芸能の普及の促進
- ・継承活動におけるモデルケースの確立とノウハウ波及に向けた支援
- ・文化財の所有者・管理者・伝承団体への補助金の交付や民間助成金の導入支援
- ・文化財施設の入館料・使用料などの収入の維持・拡大
- ・保存環境の実態に関する調査と、より望ましい保存環境の構築・提案
- ・埋蔵文化財の保護に関わる諸手続きの見直し
- ・展示・収蔵スペースの確保・維持とネットワーク化



佐倉武家屋敷での甲冑試着会



佐倉城址公園でのアートイベント開催



佐倉市立美術館での文化財の展示



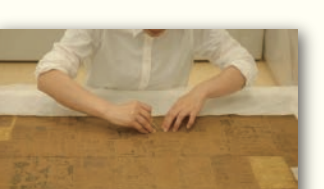
デジタルアーカイブの活用・連携



旧堀田家住宅での日本文化体験



山車や御神酒所の修復・組立指導



美術工芸品や歴史資料の保存環境の実態調査

関連文化財群

本計画では、歴史的・地理的に共通する文化財に一定のまとまりを持たせることで、措置（取組）の効果的な推進を図るため、佐倉市の歴史文化の特徴と対応する「関連文化財群」を設定します。

〔群の方針〕

関連文化財群①

(豊かな自然が育んだ印旛沼文化)

- ・構成文化財をアピールポイントとした「印旛沼文化」のイメージの確立。
- ・佐倉市観光グランドデザインと連動した、構成文化財の活用に向けた環境整備の推進。

関連文化財群②

(古東海道沿いに花開いた仏教文化)

- ・出前授業や佐倉学講座で、地域の身近な歴史について学習する機会の設定。
- ・未発見の古東海道の遺構や駅家に関わる遺跡の追加調査の検討。

関連文化財群③

(中世武家の興亡の舞台)

- ・本群の特徴をわかりやすく、かつ魅力的なものとして整理した情報の発信。
- ・各地区の展示スペースを活かし、本群の構成文化財や全体像に触れる機会の提供。

関連文化財群④

(地域で継承される祈りと暮らし)

- ・本群を構成する祭礼・伝統芸能のつながりや魅力を伝える機会や場の創出。
- ・伝統芸能活動団体が“地域を元気にするプレイヤー”として活躍できるための支援の実施。
- ・継承活動の進捗や実態を踏まえ、今後の確実な継承や担い手の確保に向けた支援の実施。

文化財保存活用区域

歴史文化④については、旧城下町周辺に構成文化財が集積することから、「文化財保存活用区域」を設定し、関連計画と連携しながら、周辺環境を含めた一体的な措置（取組）を推進します。

〔区域の方針〕

文化財保存活用区域

(江戸を支え、江戸と結ばれた城下町)

- ・区域内の文化財をアピールポイントとした「歴史のまち佐倉」のブランドイメージの確立。
- ・佐倉市を代表する歴史文化の魅力の発信や普及啓発の展開。
- ・日本遺産に認定された歴史文化の特性・強みを活かした新たな観光スタイルの展開。
- ・佐倉市景観計画と連動した、街道筋や鉄道駅周辺を含めた一体的な景観形成の推進。
- ・佐倉市観光グランドデザインと連動した、旧城下町周辺の拠点としての環境整備の推進。



【発行日】 令和6年3月

【編集・発行】 佐倉市文化課 | 〒285-8501 千葉県佐倉市海隣寺町97番地

(TEL) 043-484-6192 | (メール) bunka@city.sakura.lg.jp

令和5年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)



計画書の本編は左の2次元バーコードからご覧いただけます。